長門市立深川小学校　研究の概要

１　研究主題

対話的な学びを通して，自らの学びを自覚し，

表現できる子どもの育成（三年次）

２　主題設定の理由

新型コロナウイルスへの対応という新たな課題と向き合うこととなった令和２年度は，変化が激しい近年の社会状況をより一層実感する１年であった。学校現場も新たな生活様式に基づき，ＩＣＴによる遠隔授業や密を避けた行事の工夫など，常に新しいアイデアで変化に対応してきた。このように，急激な社会の変化に対応する力は，社会のあらゆる場面で必要とされている。新学習指導要領の基本方針にある，「未来の社会を創り出していくために必要な資質・能力」とは他にどのような力のことを指すのか，それを身に付けるために学校教育の各教科で「何を学ぶか」ということを明確にし，それらを「どのように学ぶか」ということを追求することが，これからの学校教育に求められていると考える。

そこで，本校は，一昨年度から研究主題を「対話的な学びを通して，自らの学びを自覚し，表現できる子どもの育成」とし，研究の視点を，①目的を明確にした「対話的な学び」，②自己の学びを見つめ直す「振り返り」の２点に絞って授業改善を進めてきた。昨年度の成果として，「振り返り」について，低学年・中学年・高学年・特別支援の４つのチームの特性に応じ，系統性をもたせた様式を作成することができた。これにより，児童の振り返りの質が向上し，それを次の時間の学びにつなげることができるようになってきた。一方，活発な対話や次時につながる振り返りが授業の中で定着してきたからこそ，本時のめあてや授業のねらいの設定が明確でないと，型だけをなぞったものになってしまう，という反省も挙がった。

そこで，本年度は，昨年度の研究主題「対話的な学びを通して，自らの学びを自覚し，表現できる子どもの育成」を継続し，「目的を明確にする」ことの重要性に立ち返ることで，その実現に効果的な「対話」や「振り返り」を引き出し，授業全体の質の向上をめざしたいと考える。１時間ごとの授業のねらいが各ブロックで定めた「めざす子どもの姿」の実現に向けたものになっているか，さらに，授業のねらいと「対話的な学び」がつながりのあるものになっているかということを今一度深く掘り下げていきたい。

さらに，昨年度に引き続き，児童の発達の段階に応じ，系統性を持たせた「対話的な学び」や「振り返り」の様式を発展させ，「深川小スタンダード」といえる学びの姿を構築したいと考える。

【研修主題のイメージ】

学習課題・自らの課題

⇩

「ひと，もの，こと」と豊かに関わり合いながら，主体的に課題解決に迫る。

「ひと」との対話　学習仲間や教師などと関わることで，自分の考えを広げたり，再構築したり，集約したり，比較したりする。

「もの」との対話　資料，文献などから分かったことを，自分なりに整理しながらまとめる。

「こと」との対話　体験したことなどから，気付きや新たな発見を見出す。

「対話的な学び」を生かして，自己の学びを広げ，深める。

研究の視点①**ねらいに迫るための「対話的な学び」**

・　「対話」が本授業のねらいを達成するためのものになっているか。

「振り返り」に表す過程で，自己の学びを見つめ直す。

研究の視点②**自己の学びを見つめ直す「振り返り」**

・　本時のめあてに立ち戻るための途中振り返り

・　学習内容や学習活動を確認するための途中振り返り

・　分かる（学んだ内容），関わる（学び方），つながる（学びの連続・広がり）に基づいた振り返り

一人ひとりの「深い学び」の実現

３　研究の視点

①　ねらいに迫るための「対話的な学び」

授業のねらいと対話する内容が一致しているか

「ひと」との対話

・考え方を手掛かりとしての説明　「つまり…ということ？」

・問い返し　「それは，どういうこと？」　など

「もの」との対話

・多様な手段を使っての説明　「思考ツール（図やグラフなど）で表してみると…。」

・資料などからの気付き　「この資料から，分かることは…。」

「資料Ａと資料Ｂを比べてみると…。」

「資料のこの部分に着目すると…。」　など

「こと」との対話

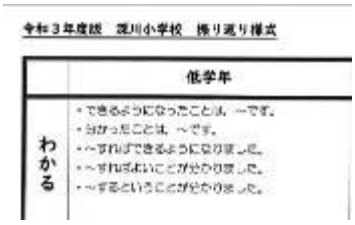
・体験からの気付き　「実際に体験してみると…。」

「予想では，〇〇だったけど…。」

「見学に行って，聞いてみると…。」

「どうやったらうまくできるかな…。」　など

② 自己の学びを見つめ直す「振り返り」



授業の中間で行う「途中振り返り」

・本時のめあてへの立ち戻り

・学習内容や学習活動の確認

授業の終末を中心とした「振り返り」

・①分かる，②関わる，③つなげるの３つのポイントから，各チームの振り返りの視点を設定

【低学年】　①分かったこと　②自分や友達の考えのよかったところ　③もっと学習したいこと

【中学年】　①新しく分かったこと②自分や友達の考えを比べて，考えたこと
③もっと学習したいこと・前の学習と似ていた（違った）ところ

【高学年】　①新しく分かったこと・大切だと思ったこと
②友達の考えから学んだこと，自分の考えが広がったり，深まったりしたこと
③もっと学習したいこと・生活や次の学習で活用したいこと

※ひまわりチームは個々の児童の実態に応じて振り返りを設定する。

５　研究の実態

	月	日（曜日）	内　　容
①	４月	１２日（月）	・研修主題，研修内容，年間研修計画①
②		２８日（水）	・研修主題，研修内容，年間研修計画② ・めざす子どもの姿と各学年の取組　　・授業者の決定
③	５月	１９日（水）	・指導案様式の提案　　・各チームの振り返り様式の提案
④		２７日（木）	・全国学力学習状況調査　採点・分析
⑤	６月	９日（水）	・指導案検討①　自閉症・情緒障害学級　国語科「季節の言葉」 ・授業参観・研究協議の進め方についての提案
⑥	７月	１４日（水）	全校授業研究会①　チーム【ひまわり】　授業者　【浦本】教諭 指導者　美祢市立厚保小学校　教頭　長谷川　真季　様
⑦	８月	４日（火）	・外国語についての研修
⑧		２５日（木）	・復伝研修（教育課程・ＩＣＴ端末研修他）
⑨	９月	２９日（水）	・指導案検討②２年図画工作科「はさみのあーと」 ３年理科「太陽と影を調べよう」
⑩	１０月	２０日（水）	全校授業研究会②　チーム【低学年】　授業者　【山﨑】教諭 指導者　長門市立仙崎小学校　教頭　末冨　奈津美　様
⑪	１１月	１７日（水）	全校授業研究会③　チーム【中学年】　授業者　【都野】教諭 指導者　防府市立中関小学校　教頭　吉田　哲朗　様
⑫	１２月	１日（水）	・指導案検討④　５年国語科「大造じいさんとガン」
⑬	１月	２６日（水）	全校授業研究会④　チーム【高学年】　授業者　【江原】教諭 指導者　山口総合教育支援センター　教育支援部 研究指導主事　　住江　めぐみ　様
⑭	２月	９日（水）	・本年度の研修の成果と課題

６　研究の実態

（１）　成果

①　ねらいにせまる対話

・　授業者が対話を仕組む際、ねらいをより意識するようになり、対話が目的ではなく、手段として機能するようになってきた。

・　対話のツールとして、ICT を積極的に活用することで、児童が多様な意見を出すことや、意見を集約する際の新たな形が提案された。

②　自己の学びを見つめ直す振り返り

・　各学年に応じて三年間で作り上げた「振り返り様式」を活用することで、毎回の授業の性質に応じた振り返りができるようになった。

・　児童の振り返りを ICT や振り返りカードで一括管理することにより、教師が次時の授業づくりに児童の声を生かすことができるようになった。また、児童自身も前時の振り返りを本時の自分のめあてとして意識する姿が見られるようになった。

以上のように、対話と振り返りにおいて三年間の積み重ねが一定の成果を得た。また、これらの成果を中心として、年齢や経験に関わらず誰もが深川小学校の授業の在り方を理解し、実践することができるように、「深川小学びのスタンダード」を作成した。

（２）　課題

①　対話の深まり

・　児童が自分の考えをもち、相手意識をもって伝えられるようになった反面、それを聞いて反応を返し、会話を往復させることが不十分であった。
⇒対話を往復させるためのモデル（型）を示し、繰り返し使うことで会話の往復に必要な接続語、指示語をうまく使えるようになるのではないか。

②　振り返りの共有

・　振り返りで友達のよさや自分との比較について記録することができていても、それを共有する時間を確保することが不十分であった。
⇒ICT を活用し、友達の振り返りもその都度共有できるようなシートを工夫することや、それに対してコメントを残すような習慣をつけることで、今以上に積極的な振り返りの言葉が期待できるのではないか。

作成した「深川小学びのスタンダード」をもとに、全校が一体となって児童に力をつけていくことができるよう、三年間の本校研修の取組をさらに充実させていきたいと考える。